

■カラー作品



戦争のばかたれ  
原爆のばかたれ  
ひとりぼっちのわんぱくゲン  
駆けよ 生きぬけ 何ンにもめげず！

原作 中沢啓治 (汐文社刊)

製作・脚本・監督 山田典吾 製作協力 山田典吾

撮影監督 安承玖 音楽監督 茂谷 毅 美術監督 重 康 山田典吾 編集 沼崎梅子 助監督 石山昭信 製作担当 宮川幸至

●本邦映画『はだしのゲン』製作と上映を成功させた

# はだしのゲン

■三国連太郎 左幸子 佐藤健太 小松陽太郎 石松宏和 吉田義夫 牧伸二 陶隆司 草薙幸二郎 大泉滉 島田順司 坂本新平 大関優子 菅我廼家二三



とき 2014年8月20日(水) ①10:30~ ②13:00~ ③15:30~ ④18:30~  
ところ 仙台市福祉プラザ2Fふれあいホール (地下鉄五橋駅下車となり)

# はだしのゲン

キャスト

中岡大吉 三國連太郎

中岡君江 左 幸子

(一部)

上映時間107分

中岡ゲン	佐藤 健太
中岡進次	石松 宏和
中岡英子	岩原千鶴子
中岡浩二	小松陽太郎

原作／中沢啓治（汐文社刊）  
 製作／現代ぶろだくしよん  
 監督・脚本／山田典吾  
 プロデューサー／山田火砂子  
 撮影監督／アン・スミン  
 音楽監督・作曲／渋谷 毅  
 美術／青野重一 照明／山本嘉治  
 編集／沼崎梅子 助監督／石山昭信  
 製作担当／宮川孝至 配給／北星株式会社

## ■ものがたり

わんぱく盛りの中岡元（ゲン）は、国民学校2年生の男の子。いつも弟の進次を従えて、憎めない悪童ぶりを思う存分発揮していた。

1945年（昭和20年）4月、太平洋戦争も終りのころ、広島市はB29爆撃機の空襲にさらされていた。

ゲンの父は戦争に批判的で、一家は町内で非国民とののしられながら、苦しい生活にじっと耐えていた。

1945年、8月6日、午前8時15分、B29爆撃機が上空に現れた瞬間、まるで太陽がまるごと落ちたような強烈な光と大爆発が起こり、空には巨大なキノコ雲が広がった。

ちよどど塀の影にいたゲンは、運よく助かったのだが・・・

一九四五年八月六日午前八時十五分広島市に、二日後の九日には長崎市に、原子爆弾が投下されてから今年六十九年目になります。当時八歳で広島で被爆した宮城県在住の被爆者の証言（太字部分）を紹介します。

爆心地から一・六キロ離れた祖父の家は全壊し、私が気付いた時「赤鬼のような姿」に焼きただれた祖父の傍にいました。その時から祖父の看病が始まりました。火傷で全身の皮膚がむけ、そこに膿が溜まりくさい臭いが発生する。くさいので蠅がたかり蛆虫が湧く、その蛆虫が祖父の肉にかみつき苦しみ悶えながら五日間生きました。幼い私にはその看病が嫌で「おじいさん苦しいなら早く天国に行つて」と思っていました。今思えば、私はなんと愚かだったかと悔やまれてなりません。「俺は無念でならぬ」と言葉を残し、三日間しか生きられなかった父親は、九日の夜、原爆に命を奪われ、葉ヒンの中に骨となり変わり果てた姿で、母親と一緒に家族のもとに帰ってきました。あの原爆が私の人生のすべてを変えたのです。将来を担う子ども達に私のような経験を決してさせたくない、核兵器は絶対に使わせてはいけない、その思いが私の原点です。ヒロシマ・ナガサキを忘れたらまた戦争が始まります。

あらためて原爆の実相を知っていただき核兵器の廃絶について考える機会にしていただければ幸いです。

宮城県原爆被害者の会

【協力】新日本婦人の会宮城県本部、日本民主青年同盟宮城県委員会、非核の政府を求める宮城の会、宮城一般労働組合、宮城一般労働組合みやぎ生協支部、宮城県教職員組合、宮城県高等学校・障害児学校教職員組合、宮城県護憲平和センター、みやぎ生協平和委員会・みやぎ生協生活文化部、宮城県原水協、宮城県平和委員会、宮城県平和友好祭実行委員会、宮城県民主医療機関連合会、宮城県労働組合総連合。（五十音順）

上映日時 2014年8月20日（水）

①10:30～ ②13:00～ ③15:30～ ④18:30～

（開場はいずれも30分前です）

上映会場 仙台市福祉プラザ2階 ふれあいホール

前売券 一般 1000円

当日券 一般 1500円 小中高校生 600円（小学生未満 無料）



【主催】宮城県原爆被害者の会（はぎの会）  
 お問い合わせ/090-7326-5885（木村緋紗子）

【提供】有限会社 インディーズ  
 TEL 03(6280)5556